

「あんさんぶるともだち」指導上の留意点

息使いの安定

フレーズの始めから終わりまで息使いの安定に心掛け、それぞれのフレーズの表現上の役割が集中している音節（アクセント）を十分な息の支えで表現出来る事。そのためにヴィヴラートは出来るだけ避ける。アクセント音節は多くの場合前後に対してより長い音符が当てられる。また、主旋律ではより高い音、バスパートではより低い音が使われる。

音楽の流れをできるだけ遠くまで読む。

大きな音楽的な纏まりを認識し、表現の拠り所とする。
そのために同型反復（ゼクエンス）や、バスパートがどの様に作られているかに関心を持つ。

テキストの語句をよく理解し、それに相応しい音色（発声法）、曲の運び等を実践する。

自分以外のパートがどの様に演奏されるかに充分関心を持つ。

多くのお客様を相手に演奏するために、より広い人間観や、それに基づく音楽的表現を目指す。その為に作曲家の偉大な才能を味方にする事が大切です。